

試験研究(中間)評価整理表

公表

試験研究機関名 環境創造センター
所管課 環境共生課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	環境回復	研究開発事業(放射線計測)	放射性核種の簡易・迅速な分析法の開発に関する研究	Sr-90やトリチウム等分析操作が煩雑である核種について、分析手法の改善や新しい分析法を導入し、精度を確保することで、分析の効率化を図る。	ICP-MSを用いたSr-90迅速分析法の検討を行うほか、電解濃縮を利用したトリチウムの分析や有機結合型トリチウム(OBT)分析法を導入し、分析精度の評価を行う。	H28	H32	B	今後、本格化していく廃炉作業に伴い、県民の安全・安心のため正確で迅速な測定・公表が不可欠である。特にトリチウムは社会的関心も高い。本研究はそのニーズに応えるため継続が必要である。	Sr-90の分析法について、高貝准教授が開発した手法を本研究のなかでどのように発展させたかの技術的な情報が不足しているため、評価が難しいが、トリチウムの分析法と共に、社会的なニーズは高い研究であるため継続研究は必要と考える。
2	環境回復	研究開発事業(除染・廃棄物)	河川・湖沼等の放射性物質の除染技術に関する研究	河川敷等を対象に、除染効果の持続性を確認し、その有効性を評価するとともに、県民の水環境に対する不安とその要因や経年変化を明らかにする等した上で、効果的な対策を検討する。	除染後の河川敷等を対象として、空間線量率等の測定及び変化の要因を調査する。県政世論調査を用いた水に対する不安とその要因解析、地域対話による水環境への意識変化を調査する。	H28	H32	A	身近な河川敷の除染効果とその持続性についての研究は少ないか、又は、一般に公表されていないため、住民の関心は高い。	河川敷における空間線量は漠然とした不安があるものの、測定データが十分ではなかった。本調査は、そのような不安に答えるデータを提示していることについて評価できる。一方で、技術という観点では、すでに開発は終了しているとも考えられる。川底土の汚染濃度が減少しているというデータと併せてこの評価はする必要があり、この研究は、除染のみならず、川底土の濃度低下を評価して、河川敷の全般的な安全を確認する方向で収束させることが望ましいと考えられる。
3	環境回復	研究開発事業(除染・廃棄物)	仮置場等の安全性評価及び住民合意形成手法に関する研究	仮置場から周辺への放射線影響の評価手法を確立し、県民の放射線リスクへの不安軽減に資する。また、仮置場設置に係る合意形成に係る知見を整理し、今後の施策立案に資する。	除去土壌等の濃度や周辺環境の情報を調査し、仮置場から住民等への被ばく影響を評価する手法を確立する。また、市町村等の仮置場設置に係る住民合意形成の知見を体系的に整理する。	H28	H32	A	住民ニーズ及び行政ニーズに即した研究であるため、研究内容の深化が望まれる。 なお、成果発表に当たっては、ビジュアル的手法を用いるなど、住民に分かりやすい手法の検討が必要である。	よく整理がなされているが、当局や他機関による同様の検討や研究成果も多くみられるため、それらと比較するなど、特色を整理することで差別化ができ、独自性が主張できると考える。また現場に適合したパラメータを精査することで、現実的な評価に近づける検討も重要となる。
4	環境回復	研究開発事業(除染・廃棄物)	除染効果の評価に関する研究	県内市町村等で実施されている除染について、知見を収集・整理するとともに、空間線量率の低減効果や除染後の除染効果の維持等の観点から解析を行い、県民の不安軽減に資する。	県内市町村等における住宅除染等の実施時期や除染前後の空間線量率等に関する知見を収集・整理し、線量低減効果や要因解析を行う。また、除染効果の持続性確認、将来予測を行う。	H28	H32	B	十分な成果が得られている。なお、今後は、住民ニーズに沿った新たな視点が必要である。	除染の実績についてよく整理できている。研究目的である知見の整理はほぼ完了しているものと考えられ、次年度以降に、手法や地域等の別による除染効果に関する定量的かつ系統的な分析が期待される。
5	環境回復	研究開発事業(除染・廃棄物)	放射性物質に汚染された廃棄物の安全な再利用に関する研究	放射性Csによる汚染程度が低い廃棄物の再利用のために、循環資源の利活用に伴う放射性Csの移行・蓄積状況を調査し、安全性の確認・評価及び長期的な生活環境への影響評価を行う	県内で発生する廃棄物等について、処理、再利用の過程における放射性Csの移行・蓄積状況について把握し、廃棄物の処理、再生利用の安全性の評価等を行う。	H28	H32	C	行政施策上有用な成果が得られる可能性の高い内容に計画改善が必要である。	データの整理としては一定の評価ができる。再利用のためのニーズの把握、再利用を現実的に動かすために必要となる安全上のルールの策定、住民説明の手順と方法など、クリアすべき課題が大きいので、より俯瞰的な視点での研究テーマの整理が必要と考える。本研究課題の視点はきわめて重要度が高い。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
所管課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
6	3-Ⅱ-(4)日常生活の安全と安心	食中毒対策	食肉の食中毒汚染状況調査	食肉中のカンピロバクター属菌を迅速に検査する方法を模索するとともに、広く食品検査に活用して市場流通食肉の汚染状況を調査し、その実態を明らかにすることを目的とする。	カンピロバクター属菌のリアルタイムPCR法によるスクリーニング検査の検討とともに、県内流通食肉の食中毒菌による汚染状況の調査を行う。	H29	H31	A	食肉の関与が疑われる食中毒事例が全国的に発生しており、原因菌及び汚染状況の早期把握が重要となっている。本研究の達成は、食中毒行政に広く寄与できると考えられるため、来年度も調査研究を継続していく必要がある。	食肉、特に鶏肉に関係するカンピロバクターの食中毒はこの10年以上発生件数はノロウイルスと競う件数で非常に多く発生しており、効果的な対策が求められる病因物質である。その原因となる食品は鶏肉が強く関係していると言われるが、喫食後発症までの潜伏時間が長い原因食品の究明が難しい傾向にある。また、カンピロバクターは動物の腸管内以外の環境では増殖できないと考えられているが、一方で少量の菌数でヒトに食中毒を引き起こすことができるため、汚染菌量が少ないこともある。従って、食中毒が発生した際、原因と考えられる食品でも少量のカンピロバクター属菌しか汚していないことが考えられることから、汚染菌量の少ない食品からも検出できる検査法が必要となる。また、日常的に汚染状況を確認しておくことで、汚染率の高い食品に対して喫食までに適切な対策を推進する基礎データとすることができ

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
7	福島新エネ社会構想等推進技術開発事業	水素社会実現のためのスマートO&M(運転管理・メンテナンス)技術の確立	ダニ媒介性感染症の検査体制の構築と福島県におけるリスク分析	水素社会実現に必要な「安全性」と「経済性」を両立するため、IoT、AIを活用した先進的なプラント管理、点検技術を開発し、いち早く水素プラント設備に適用する。	県内企業とハイテクプラザが共同で水素プラント設備に関する運転管理・早期故障診断の技術開発を行う。点検対象をコンピュータ内に精緻に再現する手法により、視覚的な分かりやすさと、早期診断の正確性を実現する。	H29	H31	A	当初目標を十分達成している。また、移動式水素ステーションの開所等の要因変化に対応するため研究計画を一部追加し継続する。	実プラントに実装できる段階に近づいており、体制と予算を強化して(当初計画以上に人員と予算を注ぎ込むなど)加速すべき課題と考える。浪江町に建設する水素製造拠点において、運転管理の実績を積み上げることが望ましい。注目される拠点で実証し、県内産業界が先行者となって国内市場を寡占するよう、中期計画や事業化戦略を練って欲しい。
8	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	福島県オリジナル清酒製造技術の開発	福島県オリジナル清酒製造技術の開発	福島県産原料(米・酵母・水)を用いた県産清酒の多様化と品質の安定化、また、さらなる高品質化を実現し、県産品振興の一助とする。	県オリジナル酵母「うつくしま夢酵母」「うつくしま煌酵母」をはじめとする酵母と県産酒造好適米を用いた福島県オリジナル清酒の製造方法とその特徴についての検証を行う。	H29	H31	B	研究は概ね予定通り進捗しており、原料米と使用酵母による酒質の評価や酵母のゲノム解読による酵母の遺伝的特性の把握を行い、一定の考察を得ている。	県産市販酒の一般成分分析や香気分析の結果によって県産酒の傾向を的確把握できた考えられている。また、県開発の酵母と適合する酒米や水の硬度、仕込み条件など詳細に検討されていることは、評価できる。さらに、清酒の酵母の遺伝解析だけでなく清酒のオフフレーバーであるDMTSの分析まで行っている点、研究の深化が見られた。一方、これらの一連の研究でも、一般消費者への意見徴収のようなマーケティングリサーチまで行った方がより成果活用ができると考えられる。そこで今後の継続検討で期待したい。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
9	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	・農林水産物の安定供給技術の確立 ・省力化・高品質化等の生産技術の確立	多様なニーズに応える土地利用型作物栽培の高品質、安定栽培技術の確立	消費者及び実需者からの多様なニーズに対応した水稲、大豆、麦類、ナタネ及び自給飼料等の土地利用型作物について、収量の安定、省力化、高品質化の生産技術を確立する。	水稲、大豆、小麦については、作柄解析を行うとともに、水稲は疎植栽培等の省力化技術及び高品質米の生産技術を、大豆は主要病害や難防除雑草の防除技術の開発や低コスト安定栽培技術、麦類は有望系統等の地域適応性を検証する。ナタネは、優良品種選定やその栽培法を、葉たばこは新資材の適応性を試験する。飼料作物は省力化技術を検証する。	H27	H32	B	一部試験の見直しを行い、さらなる成果が期待できることから、来年度以降も試験を継続すべきである。	主要作物の水稲、大豆、小麦の生産性の解析が的確に行われており、その上で品質向上に向けた新品種の導入などが適切に進められている。雑草管理の問題は今後も集中的に対策技術の開発が求められているが、全体の計画の進捗状況に合わせて研究の統廃合および集中化が進められている。
10	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	多様化したニーズに対応した品種開発・家畜の改良等	県オリジナル果樹品種等の育成・選定	本県の気候風土を生かし、ブランド力の高いモモ、リンゴ、ナシ、ブドウ、カキ等の新品種を開発し、果樹産地および農業経営の発展・拡大に資する。	モモは晩生品種および早生品種、モモせん孔細菌病抵抗性品種、リンゴは「ふじ」の受粉樹として好適で優良な形質有する品種、ナシは早生品種、中晩生品種、黒星病抵抗性品種、ブドウは皮ごと食べられ、大粒・黒系・種なし品種、カキは外観及び品質が優良な品種の育成。	H27	H32	A	おおむね計画どおりに研究が進行しており、さらに県オリジナル品種開発に対するニーズは大きいことから、早期育成に向けて来年度も優先して拡充されるべきである。	高品質であり、かつ気候変動や病害虫に対して頑強な品種の育成は福島県の農産物ブランドの確立のために必須の作業である。目的が明確であり順調に研究が進捗していると判断される。
11	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	・多様化したニーズに対応した品種の開発・家畜の改良等 ・開発・改良した品種や家畜、種苗等の利活用技術の確立 ・開発・改良した品種や家畜、種苗等の安定供給技術の確立	県オリジナル優良家畜の改良	福島牛、フクシマD桃太郎、会津地鶏、ふくしま赤しゃもなどの県オリジナル家畜のブランド力強化と高品質安定生産のために、畜産農家や地域のニーズに対応した維持・改良を図り、地域に密着した畜産復興の加速化と地域農業の力強い発展に資する。	県オリジナル各品種である優良家畜を改良するとともに、効率的で高品質な改良技術、持続的供給体制を確立する。 (1)「フクシマD桃太郎」の開放型育種による改良維持と産肉能力向上 (2)「会津地鶏」、「ふくしま赤しゃも」を維持・改良及び後継系統の作出しと更新 (3)ゲノム情報による育種等の改良技術の確立 (4)胚移植技術(雌雄判別)を活用した高能力肉用牛の効率的生産技術の確立	H27	H32	B	県オリジナル家畜の維持・改良は、生産者団体と改良目標を共有しながら県が大きな役割を担って進めなくてはならない分野である。優良なオリジナル家畜の作出・安定供給は農家への経済効果、地元活性化及び消費者へのアピールも大きいことから、来年度も継続されるべきである。	豚、鶏の育種が順調に進み、今後も福島県の優良家畜の維持に貢献する成果が期待される。また、牛肉の肉質に関する研究成果は育成環境との連関が認められることから、生産者への迅速な技術移転が期待される。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 水産海洋研究センター
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
12	重点プロジェクト:農林水産業再生(農業の復興)	新技術の開発と生産現場への移転	「ふくしまの宝」を生かした農業復興加速化のための生産技術の確立	船びき網漁業者の計画的・効率的な操業を支援するため、シラスの漁場形成予測技術を開発する。	調査船による中層トロール網を用いた調査により、漁獲加入前のシラスの分布状況を調査する。併せて漁獲物の全長組成を把握し、これらを整理、比較することで漁場形成予測技術を開発する。	H28	H30	B	最終年度の30年度も継続して実施し、成果輩出に向けた取組みをすすめるべきである。	試験は概ね順調に進展しており、継続して進めることが望ましい。 ソバ、オタネニンジン、雪下野菜に関しては一部計画通りに進展をしていない内容もあったが、問題点を把握した上で対処するための試験を行なっている。(信濃)

試験研究機関名 水産資源研究所
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
13	自然・環境と共生する農林水産業の推進	農林水産業における資源の循環利用のための技術確立	沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明(幼稚魚新規加入状況調査)	沿岸性底魚類を対象として幼稚魚調査及び漁獲物調査を行い、幼稚魚等の分布量と漁獲加入量や海洋環境との関係を把握する。稚魚の分布状況等より予測した漁獲動向から資源の適正な利用方法を漁業者に提示し、漁業者が取り組み可能な資源管理の支援を行う。	沿岸域及び松川浦において幼稚魚の季節別出現数、成長等を把握し、漁獲物調査及び資源解析の結果から観察される漁獲加入状況と合わせて資源動向を予測する。また、幼稚魚の発生量と海洋環境との関係について検討し、その変動要因を明らかにする。	H28	H32	A	沿岸性底魚類の新規加入状況は今後の資源動向に大きく影響するため、研究ニーズが高い課題といえる。この課題に関する試験研究結果を提供することで、漁業者自らがその資源状態に応じた資源管理を実践できるよう、今後も実施していくべきである。	順調に進捗しており、自己評価は妥当である。資源管理に直結する重要な事項であるので、他の予算を活用し、充実した調査研究を期待する。 順調に進捗しており、自己評価は妥当である。資源管理に直結する重要な事項であるので、他の予算を活用し、充実した調査研究を期待する。

試験研究機関名 内水面水産試験場
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
14	安全・安心な農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立	内水面重要水産資源の増殖手法の開発	経済的に負担が少なく、生態系を有効に活用しつつこれと融合した効果的な増殖手法を開発する。これにより、内水面漁業協同組合経営の向上、活動の活発化に寄与する。	1 人工産卵床造成による増殖技術の開発 2 滞留親魚の再放流による増殖技術の開発 3 湖沼に棲息する魚類の増殖技術の改良	H28	H32	B	試験計画は概ね計画どおり進捗しており、状況変化に伴う手法の一部変更はあるものの、到達目標に変更はなく、目標を達成できると考えられる。	順調に進捗している。計画変更は、本研究の成果が行政に反映された結果とのことなので、前向きに評価して良い。引き続き着実な成果を挙げることを期待する。